GX検定 アドバンスト 出題範囲（シラバス）

チャプター	大項目	中項目	キーワード
1	**脱炭素経営の広がり**	脱炭素経営の全体像	・脱炭素経営とは ・脱炭素経営の重要性 ・脱炭素経営の全体像 ・脱炭素経営の手順
		脱炭素経営に関する国際動向	・CSRからSDGs・ESG投資へ ・国際的なイニシアティブ（TCFD・SBTi・RE100） ・基準策定の流れ（ISSB）
2	**気候関連リスク・機会の把握**	気候関連リスク・機会の把握	・気候関連リスク・機会の把握とは ・気候関連リスク・機会を把握する意義 ・気候関連リスク・機会の把握の流れ
		ガバナンス整備	・気候関連リスク・機会のガバナンス体制 ・気候リスク・機会の管理プロセス
		リスク重要度の評価	・リスク項目の列挙 ・事業インパクトの定性化 ・リスク重要度の評価
		シナリオ群の定義	・シナリオの選択 ・関連パラメータの将来情報の入手 ・ステークホルダーを意識した世界観の整理
		事業インパクト評価	・リスク・機会が影響を及ぼす財務項目の把握 ・算定式の検討と財務的影響の試算 ・成り行きの財務項目とのギャップを把握
		対応策の定義	・自社のリスク・機会に関する対応状況の把握 ・リスク対応・機会獲得のための今後の対応策の検討 ・社内体制の構築と具体的アクション、シナリオ分析の進め方の検討
		文書化と情報開示	・TCFD 開示項目とシナリオ分析の関係性の記載 ・各ステップの検討結果の記載
3	**サプライチェーン排出量の概要**	GHGプロトコル	・GHG プロトコルとは ・GHG の種類 ・国内外の GHG 算定ルール ・日本国内で参照可能な文書 ・GHG 可視化クラウドサービス
		排出量算定の概要	・サプライチェーン排出量とは ・上流と下流の区別
		算定の原則	・算定目的の設定 ・算定範囲の確認 ・カテゴリの抽出 ・データ収集・算定
		算定結果の活用方法	・サプライチェーン排出量の活用方法 ・原単位化による評価 ・削減量の考え方
4	**Scope1, Scope2の算定方法**	Scope1,2 の基本的な考え方	・Scope1,2 の位置づけ ・Scope1,2 の定義 ・Scope3との違い
		Scope1,2 の算定方法	・Scope1,2 算定の流れ ・排出活動の抽出 ・活動ごとの排出量算定 ・排出量の合計・CO2 換算 ・算定の事例 ・Scope1,2 算定に関するよくある質問
5	**排出削減目標の設定**	削減目標設定の手順	・排出量把握 ・目標水準の決定
		SBT概要	・SBTとは ・コミットと認定 ・SBTのメリット ・SBTの認定の流れ
		SBT認定基準	・基準年・目標年 ・Scope1,2の目標水準 ・Scope3の目標水準
		SBT認定状況	・世界全体の認定状況 ・日本企業の SBT への取組み状況
		中小企業向けSBT	・中小企業向けSBTの概要
6	**排出削減計画の策定**	現状把握	・事業環境変化の想定 ・排出に影響を及ぼすマクロ環境の変化 ・現状の GHG 排出量の可視化 ・今後の見通し整理 ・SBT 目標とのギャップ把握
		削減施策の検討	・削減の取組の検討順 ・短期／中長期の双方の視野 ・Scope1,2 の削減策検討
		削減施策の優先度判定	・削減インパクトの推計 ・実現可能性の評価 ・削減施策の優先度判定
7	**削減対策の実行**	削減の全体像	・削減の全体像 ・基本的な実行ステップ
		省エネの推進	・省エネの種類 ・省エネ事例 ・省エネに関連する補助金
		再エネ電力の調達	・自然エネルギーの電力に関する基本事項 ・調達方法 　自家発電・自家消費 　コーポレート PPA（電力購入契約） 　小売電気事業者から購入 　自然エネルギー由来の証書を購入 ・調達における留意点
		燃料・原料転換、新素材活用	・化石燃料からバイオ燃料への転換 ・再生可能資源を用いた製品材料の選定 ・環境に優しい新素材の開発と応用
		NET s（炭素除去）	・ジオエンジニアリング ・ネガティブエミッション技術の分類・定義 ・DACCS ・BECCS ・植林・再生林 ・バイオ炭 ・ブルーカーボン管理
		カーボンクレジット	・カーボンクレジットの基本 ・カーボンクレジットに関わる政策制度の動向 ・カーボンクレジットの創出から利用までのプロセス ・カーボンクレジットの分類 ・カーボンクレジットの国内動向 ・排出量取引
		新規脱炭素ビジネスの展開	・脱炭素ソリューションの整理 ・ビジネス展開の事例